

北九州船紀行（2025年10月）

個人会員 福富 廉

福岡に行く機会があり、その近くにある離島と関門海峡付近の船を見てきた。新造フェリー「けやき」「はまなす」が並んで艤装中の写真も撮って来たのでレポートしたい。

1. 宗像大島、地島

福岡市の東に位置する宗像市には玄界灘に面して大島、地島の2つの有人島があり、中でも、大島は世界遺産の「神宿る島」宗像・沖ノ島の関連遺産群の中に含まれ、その北西 48km にあって上陸できない沖ノ島を拝むための遙拝所や宗像大社の中のお宮の1つ中津宮がある。この島への足としては、最寄りの神湊（こうのみなと）港から宗像市営のフェリー「おおしま」と高速旅客船「しおかぜ」が走っており、通常はフェリーが1日5往復（片道25分）、旅客船が1日2往復（片道15分）の運航がなされている。

一方の地島（じのしま）は人口が130人程度の小さな島で、猫が多くて猫の島と呼ばれているそうだが、市営の旅客船「ニュージのしま」が1日6往復走っている。島には集落が2つあって、港も泊港と白浜港の2つ、神湊～泊～白浜を片道25分で結んでいる。

九州と島の間は関門海峡と福岡や長崎方面との間の内航船の航路となっており、交通量も多かった。



大島航路のフェリー「おおしま」 198GT
宗像市・神湊港にて



宗像市営渡船「おおしま」と「しおかぜ」 大島・筑前大島港にて



大島航路の高速旅客船「しおかぜ」87GT
大島・筑前大島港にて



地島航路の旅客船「ニュージのしま」55GT
(左) 地島・白浜港にて
(下) 神湊港にて



2. 関門海峡

海峡の通過船情報を調べたら、行く当日の日中、クルーズ船「ウェステルダム」が通過することがわかり、時間を調整して撮影してきた。あいにく雨交じりの曇天で残念であったが、陸上からは初めて見ることができた。この期間、頻繁にクルーズ船が通過しているようで、日中通過も多いようだ。

一方、その翌日は爽やかな晴天となり、シップウォッ칭のために門司港から唐戸経由の巖流島往復と小倉港から市営渡船「こくら丸」で馬島までの往復をしてきた。後者は関門海峡の西側半分を見られる唯一の定期船である。



水素とバイオディーゼル燃料を活用したハイブリッド型電気推進船「ハナリア」とその船尾の水素タンク（右）
238GT 門司港にて 乗船してみたかったが、週末のみの運航のため今回は乗船できなかった



関門海峡大橋を通過する「ウェステルダム」（上）と新日本海フェリーの新造2隻とのスリーショット（下）



門司港第一船溜にいた関門汽船の遊覧船「SANTA」（左）と「SUN SEA 6」（右）
背景は左から、旧門司三井俱楽部、旧日本郵船門司支店のビル（奥、JR門司港駅前）、旧大阪商船門司支店のビル



関門汽船の「ふくまる」(左)と「がんりう」(右) 平日は1隻が1日中海峡を往復しているようだ どちらも門司港



関門汽船の「しおかぜ」 門司港

関釜フェリーの「はまゆう」 下関港



三菱重工下関造船所で艤装中の新日本海フェリーの新造2番船「はまなす」(左)と1番船「けやき」



北九州市営渡船小倉航路「こくら丸」95GT
 (左) 馬島港にて (下) 小倉港にて
 3年前と比べるとカラーリングが変わっていた (左下写真参照)



【参考】2022年12月の「こくら丸」 小倉港



国土交通省関門航路事務所の測量船「海燕」 小倉港

3. 帰路は新門司から大阪南港へ、そして「ふねしる」見学

帰路は新門司港から名門大洋フェリー第2便の「フェリーふくおか」に乗船し大阪南港に上陸した。今回、行きたかったのはこの7月に開館した商船三井のミュージアム「ふねしる」。シミュレーターは体験しなかったが、時間もあったので映像等を十分に見てくることができた。



朝起きたら阪九フェリーの「やまと」が真後ろに続航していた。
 その後は、多数の漁船を避けるために右に左に別れたり真後ろについたりをしばらく繰り返した。



(左と右) いつのも大阪南港の風景